

令和８年度　全国学力・学習状況調査
調査結果・分析

小野市教育委員会

令和８年４月２３日、小学６年生と中学３年生を対象に、国語、算数・数学、英語（中学生のみ）の学力調査及び生活状況調査が全国一斉に実施されました。今年度は３年ぶり３度目となる英語が対象となりました。以下に、本市全体における結果及び分析についてお知らせします。これからも、子どもたちの『夢と希望の教育』を推進してまいります。なお、分析内容については、各校ホームページや学校だより等でお知らせします。　　令和８年１１月　　小野市教育委員会

学力調査　～小野市の結果分析～

☆本年度は、小学校は国語・算数、中学校は国語・数学・英語において、『知識』と『活用』が問われる出題形式でした。漢字や計算などの基礎・基本、文章や図・グラフから情報を読み取る力、論理的に考え、問題を解決する力、自分の意見を論じる力が問われました。

※中学校英語の数値は、IRT スコア

	小学校		中学校		
	国語	算数	国語	数学	英語
小野市	**63**	**58**	**64**	**59**	**493**
兵庫県	62	57	63	58	505
全　国	61	56	64	57	499

小学校　国　語

☆漢字の書き取り問題の正答率が高く、基礎的な学力の定着が確認できます。「文章を読んで考えたことを、自分の経験と結び付けてまとめて書くこと」について高い正答率でした。

▼「話の中心が明確になるよう話の構成を考えること」について課題が認められました。筋道を立てて情報を組み立てる「論理的思考力」の育成が必要です。

小学校　算　数

☆二つの表を比較して根拠を記述する問題についてよく理解できています。情報を整理して論理的な根拠を基に表現する力が着実に身に付いています。

▼表から読み取れる数字を活用することはできていますが、「その数字が何を表しているのか」を言葉で説明する習慣が大切です。

中学校　国　語

☆文脈から適切な言葉の使われ方を判断し、正しく選択する力はしっかりと身に付いています。単語の類型や活用、助動詞の働きといった「知識及び技能」の問題も正しく捉えられています。

▼複数の条件に基づき文章を書く問題において課題がありました。提示された情報を整理して書くという練習が必要です。

中学校　数　学

☆反比例や確率の基礎、文字式の計算、グラフの読み取りの領域において正答率が高く、数学の基本的な知識・技能が定着しています。

▼記述式の問題について課題がありました。「何（表、式、グラフ等）を手がかりにしたか」「根拠は何か」を部分的にでも書く取り組みが大切です。

中学校　英　語

☆「必要な情報」を的確に判断した上で、聞き取ることができています。

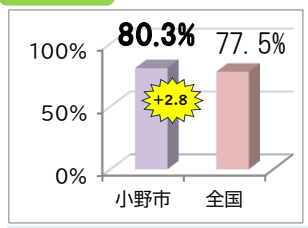
▼「書くこと」に課題がありました。自分の意見に対する「理由」を英語で書くことが苦手な傾向が見受けられました。短い文でも、「書く」経験を積むことが英語で表現する力を育てる一番の原動力となり、自信につながります。

学習状況・授業づくり

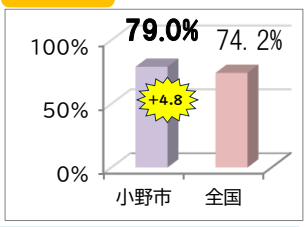


【質問】算数・数学の授業内容はよく分かる

小学校

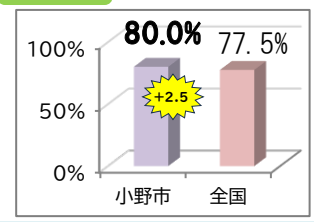


中学校

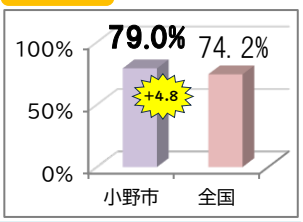


【質問】算数・数学の学習は好きだ

小学校

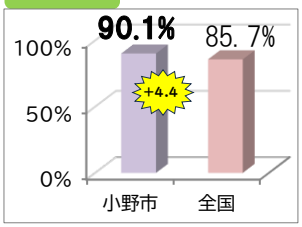


中学校

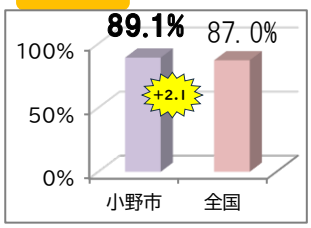


【質問】話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりしている

小学校

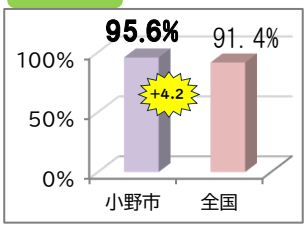


中学校

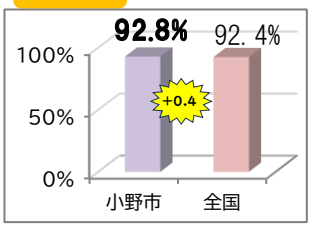


【質問】友人の考えを大切にし、協力しながら課題解決に取り組んでいる

小学校



中学校



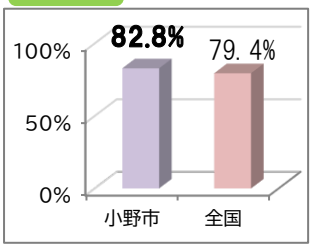
◆各教科において、「授業内容がよく分かる」と答えた子どもたちの割合が高い数値となりました。子どもたちが自ら進んで学び、お互いの話し合いを大切にしながら学習を進める姿勢もしっかりと身に付いています。今後も、お互いの意見を尊重しながら、学ぶ喜びや楽しさを実感できる授業づくりを推進してまいります。



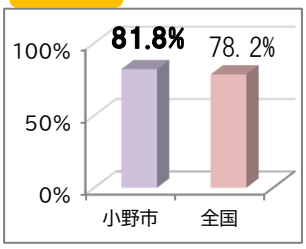
学びに向かう力・学習の習慣化と学力

【質問】分からないことや詳しく知りたいことがあったとき、自分で学び方を考え、工夫する

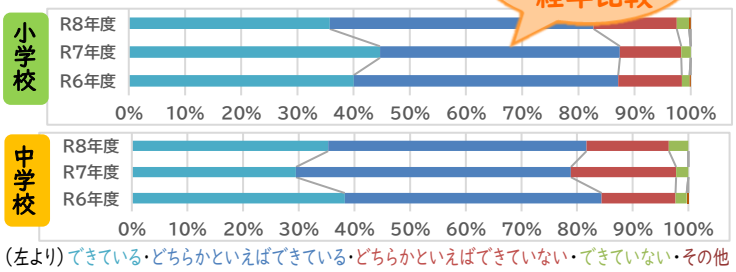
小学校



中学校



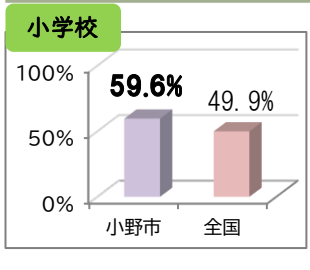
小野市の経年比較



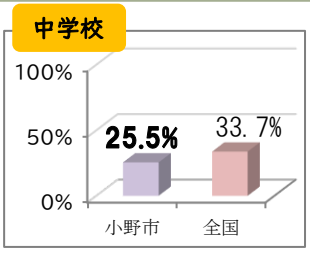
(左より)できている・どちらかといえばできている・どちらかといえばできていない・できていない・その他

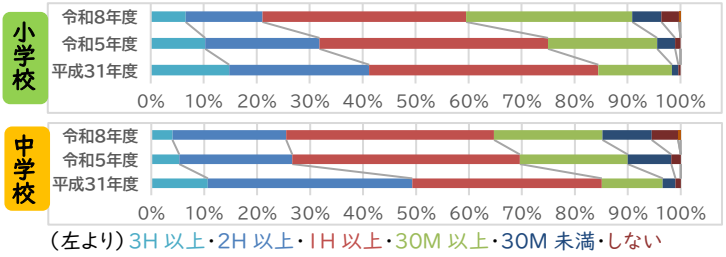
【質問】平日、小学校1時間以上(中学校2時間以上)学習(家庭学習)をする

小学校



中学校





(左より)3H 以上・2H 以上・1H 以上・30M 以上・30M 未満・しない

◆概ね主体的に学習に取り組めています。しかし、ここ数年は小・中学生ともに家庭学習時間が減少傾向にあり、大きな課題と考えます。学校では、家庭学習の大切さや計画的な進め方について、子どもたちと一緒に考えてまいります。スマホ・ゲームの使用時間を含め、家庭学習に集中できる環境づくりをご家庭の協力のもと進めま

☆小野市では、『夢と希望の教育』の推進を掲げ、児童生徒を学校、保護者及び地域で育てる視点を大切に、「学力向上」、「主体的・対話的な学び」ならびに「自主・自立の育成」に取り組んでいます。今後も児童生徒の「学びたい」「できるようになりたい」という意欲を尊重し、他者との協働的な学びを通じて「確かな学力」と「未来への道を切り拓く力」の育成を進めます。



小野市教育行政顧問　東北大学 川島隆太教授の脳科学理論より



前頭前野を鍛え、集中して学習に取り組むために

	小学校		中学校	
	小野市	全国	小野市	全国
毎日、同じくらいの時刻に寝ている	84%	83%	81%	81%
毎日、同じくらいの時刻に起きている	92%	91%	96%	92%
朝食を毎日食べている	96%	93%	94%	91%

◆「早寝・早起き・朝ごはん」をはじめとする規則正しい生活習慣は、子どもたちが夢や希望を叶えるための大切な土台となります。睡眠時間の減少が心配されます。原因としては、スマホ・ゲームの時間が大幅に増加していることが影響していると考えられます。

心の成長



	小学校		中学校	
	小野市	全国	小野市	全国
自分には良いところがある	86%	86%	87%	84%
いじめは、どんな理由があってもいけないと思う	96%	96%	97%	95%
人が困っている時、進んで助ける	94%	93%	94%	91%
人の役に立つ人間になりたい	97%	97%	97%	96%
学校に行くのは楽しい	91%	86%	88%	85%
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う	80%	80%	81%	73%

◆小野市の子どもたちが、ご家庭や地域のあたたかい関わりの中で、人を思いやる気持ちや地域を大切にする心を育んでいることがうかがえます。子どもたちの健やかな成長のため、褒めることや励ますことなど、保護者・学校・地域が連携した取り組みを進めます。

～学力と生活・学習習慣の関係～



	学力結果と相関関係があった生活・学習習慣（主なもの）
小学校	○どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っている。 ○うまく情報を集めたり、整理したり、発表したりできている。 ○地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。
中学校	○自分で学び方を考え、工夫することはできている。 ○互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめている。 ○どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っている。
小・中共通	○自ら考え、進んで取り組む子ほど、正答率が高い。 ○自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。 ○学習内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげている。

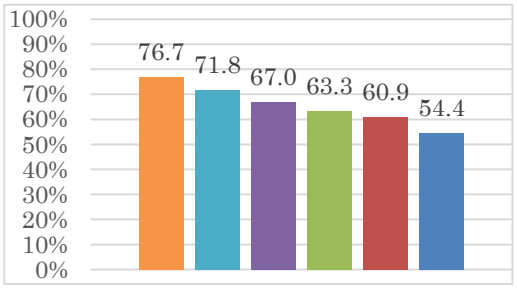


～学力と生活・スマホ・ゲーム使用の関係～

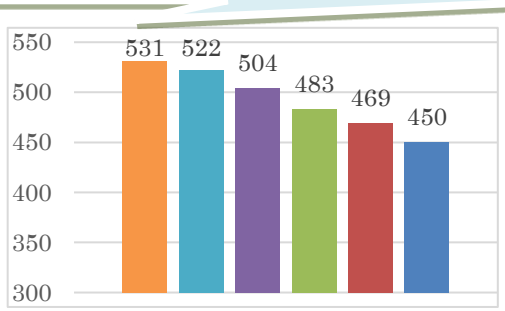


	小学校		中学校	
	小野市	全国	小野市	全国
スマホ・ゲーム等の時間（1時間以下）	36%	21%	13%	8%

【質問】普段、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンやゲーム機で SNS や動画視聴などをしますか



中学校国語



中学校英語

※左から
- 30分より少ない
- 30分以上1Hより少ない
- 1H以上2Hより少ない
- 2H以上3Hより少ない
- 3H以上4Hより少ない
- 4H以上

※中学校英語の数値は、IRT スコア

◆SNS や動画視聴などの時間が長くなればなるほど正答率は下がっています。スマホ・ゲームの使用について、子どもたちが主体的に「時間を決める」「ルールを決める」ことができるように学校と家庭が連携した取り組みを推進していきます。

脱スマホプロジェクト

スマホの長時間利用は、思考や感情のコントロール（自己抑制）を司る前頭葉の発達を停滞させ、脳の発達が止まってしまうリスクや、集中力・学力・非認知能力の著しい低下を招くことが指摘されています。

小野市では生活習慣の問題ではなく、脳科学の視点から「教育の危機」と捉え、スマホとのよりよい付き合い方を考える取り組みを最優先で進めています。

令和８年度は旭丘中学校区において、子どもたちの基礎学力の定着や前頭前野の育成、非認知能力の向上を目指し、東北大学の榊浩平助教の助言や指導を得ながら「脱スマホプロジェクト」を推進しています。

取り組み内容

「自分で自分をコントロールする力」を育てる

○自分たちでルールを決めよう！

子どもたちが自ら話し合って独自の「マイルール」を設定します。
「マイルール」の取り組みは、【実践】→【ふりかえり】→【改善】を行いながら、スマホを禁止・没収するのではなく、子ども自身が「自分で自分をコントロールする力」を身に付けるための取り組みです。

○スマホ以外の楽しみを見つけよう！

「読書」「お菓子作り」「イラスト描き」など、スマホを使っていた時間に、スマホに代わることができる取り組みを自ら考え実践します。また、どのような取り組みをしたかを子どもたち同士で共有し、自分自身の楽しみを広げていきます。

令和９年度より全市に広めて取り組む予定